

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年6月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3771400219
法人名	悠悠有限会社
事業所名	グループホーム悠悠香南
所在地	香川県高松市香南町西庄182番地1 (電話)087-815-9335

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年5月22日	評価決定日	平成21年6月15日

【情報提供票より】(21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 一部2階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	9,000円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	500円	おやつ	200円
	1日	1,450円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	76歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	のむら内科クリニック・高松平和病院・おさか脳神経外科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

悠悠香南は丘陵地帯のふもと、深い川を正面に抱き、自然に恵まれた環境にある。共有空間は天窓からの自然採光、居室は使い慣れたものを持ち込み、住み慣れた空間になるように配慮されている。利用者は車いす利用者皆無、健やかで、理念「やさしい」を掲げ、明るく落ち着いたケアがなされている。ひとり一人を大切に、家族的なかわりを第一に考え、日々取り組まれている。管理者を中心に介護計画の作成や評価、見直しなど職員全員で取り組み、質の高いサービス提供に努力している。法人内の研修も定期的に行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議を活かした取り組みや地域との交流については、法人全体で協議され、コミュニティへの参加が実現された。自治会への加入については今後の努力を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を理解し、将来のビジョンのため、職員全員でミーティングをし、改善策につなげていく心構えがうかがえる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の回を重ねる毎に地域の代表者、家族からの要望、行政機関からの助言など、深い話し合いの進展が見られ、ボランティアの支援も多くなるなど、サービスの向上に生かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族へは毎月月末に健康状態、生活状況、金銭管理などの報告がされている。家族からの意見、話し合いの中で気づいた事なども報告してもらっている。なお昨年家族アンケートを年1回実施しており、意見の把握に努め、得られた情報は職員間で共有し、周知して迅速な対応に努めている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受け入れにより、1対1の対応が出来、外出支援が可能となった。地域の一員としての交流を常に推進し、特に防災に関する協力の在り方についての取り組みを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「やさしい」。認知症高齢者とのかかわりを大切に、また地域の方々のやさしい交流の意味も含めて作られており、更に悠悠香南独自の理念として「愛情」を掲げ、家族的なかかわりを大切に取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「や・さ・し・い」—優しい心で、さわやかな笑顔、信頼関係を大切に、一緒に楽しく—を共有し、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を通じた自治会、婦人会等のかかわりの中で、地域で参加できる活動を通じて交流を深めるよう取り組まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員に評価表を渡し、ミーティングをしてまとめられている。評価に対しては改善に向けて努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族からの意見、自治会からの行事予定等活発な話し合いがなされ、前向きに取り組んでいる姿勢が感じられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>パンフレットを置かせてもらい、相談事に対しては助言をもらう等市町村と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月末に手紙にて健康状態、生活状況、金銭管理などの報告をしている。また利用者に関係が変化があればすぐに電話連絡がされている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>昨年から年に一回家族アンケートを実施しており、満足度、苦情、要望等が出され、これに対して速い対応がされている。食べているものが分からないという声には3か月に一回悠々便りを送るときに大まかな献立を送るようにした例などがある。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を崩さないように、異動については最小限に抑える事を中心に配慮されている。やむを得ず異動があるときは新規職員を早めに配置し、引継ぎなどが円滑にされ、利用者に関係が不安が生じないように取り組んでいる。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間行事の中に職員の希望する研修を取り入れ、法人内で毎月第3水曜日に定期的実施されている。法人外の研修については、情報を提供し希望する研修に参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内の事業所との交流は常時もたれている。最近他のグループホームとの交流が出来、勉強会に招待されている。これを機に今後益々発展していくことを期待したい。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態に応じて、自宅へ外出、外泊を試み、いつでも自宅に帰れるという安心感を持ってもらう対応をすることもある。家族の協力を得ながら、面会の回数を調整し、徐々に馴染めるようにする等個別に対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念にある「一緒に生活する」をモットーに、生活歴を知り裁縫の得意な人には手伝ってもらったり、その人を大切にする取り組みがなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出について、散歩はあまり好まない人にドライブを試みたところ、表情・行動などから散歩よりドライブの方が好きであると分かった例の様に、その人の思いを汲み取るような対応がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族、職員、医師等なるべく参加出来る様にし、本人の状況を十分にアセスメントし、意見を出し合い、家族の要望を聞き介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	独自の行動評価、実施記録、ケアプラン実績記録表等により、毎月評価して見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方の家族が面会に来た時は、部屋を用意したり、利用者の居室に簡易ベットを入れて宿泊する事もある。ホームと家族が気兼ねなく家族的なかかわりが出来る様、柔軟な支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を大切にしている。ホームドクターが2週に1回往診に来ている。協定を結んでいる総合病院が3カ所在り、適切な医療が受けられるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化された場合の対応に関する指針」に基づき、家族、かかりつけ医と話し合いながら、出来る限り本人や家族の意見を尊重し支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	独自の「プライバシー保護の取り扱いマニュアル」を作成しており、これに基づき対応している。特に指示・命令語を極力使わないようにミーティングで常に話し合われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食の場面で、一人ひとりのペースを尊重し、何気ない支援がされており、落ち着いた雰囲気の中で強制することなく全員が完食していた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人は豆の筋とり、ごぼうのささがき、食器の片付けなど楽しそうにしている。嗜好品のタバコを吸う人は1日2回自ら決められた外で指定の椅子に座り、職員からタバコを受け取りたのしんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は隔日に実施されている。入りたくない人は翌日対応するなど強制はせず、スムーズに入浴を楽しまれている。入浴拒否はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、家族からの情報などから、針仕事の好きな人、料理の好きな人、洗濯物をたたむ等本人の出来ることを見つけ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近辺の散歩、水やり、近くの同法人グループの事業所まで歩き、畑仕事など支援している。遠出、買い物については月に2回位家族やボランティアの支援を受け、1対1の対応で実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの外に道路、深い川があり立地条件から、安全性を考えると利用者の状況によって鍵をかけることはやむを得ないと思われる。	○	日中は玄関を開放したいという思いがあるので、今後更に工夫、利用者の状況によりカギをかけないケアに取り組まれる事を期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練、消火訓練を実施している。今年度は夜間を想定して、職員がモデルになり外へ避難させる事を実際に体験する企画が立てられている。	○	災害時にいち早く対応してくれるのは近隣の人であることから、今後近隣の人の協力の在り方について、事例を通して検討されることを期待したい。(例:避難させた利用者の見守りなど具体的に)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分補給などについては毎食記録されており、全量摂取されている方が多い。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は適当な広さがあり、利用者同士の距離も適当に取られ、ゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはダンス、仏壇、椅子など使っていたものがおかれており、馴染みの環境作りの点から、本人が居心地よく過ごせるように配慮されている。		